

付篇1

吉田遺跡出土(動物医療センターリニアック室)金属製品成分分析調査

横山成己・(株)吉田生物研究所

1. 対象資料の概要

平成26年度に、山口大学吉田構内南東部に位置する動物医療センターに増築計画が立案されたことを受け、開発域を対象に本発掘調査を実施した(本書第2章第2節1. 動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査)。調査では、古代官衙域の南西端を区画していたと推定される埋没谷が検出され、その埋土から須恵器や木製品をはじめとする多量の遺物の出土を見た。

調査の対象とした2点は、「谷埋土2下層」として遺物の取り上げを行ったもので、谷右岸の緩傾斜を覆う状態で堆積した層に包含されていた資料である。谷埋土2下層の堆積時期は、包含される土器から平安時代後期と推定される。当埋没谷からは、既往の調査において銅鉱石や銅製蛇尾末製品、鞆羽口など冶金や鑄造にかかわる資料が出土していることから、成分分析を実施することにした。

資料No. 1は須恵器坏蓋天井部に付着しており(本書40頁図19-207)、No. 2は単体で出土している。分析調査は(株)吉田生物研究所に委託した。以下に調査成果を報告する。

2. 資料

調査した資料は表16に示す金属製品2点である(写真126、127)。

表 17 資料表

No.	写真	資料名	概要
1	126	金属製品	土師器に癒着。土錆に覆われている。釘状
2	127	金属製品	錆に覆われている。表面は脆い。形状不明



写真 126 資料No.1



写真 127 資料No.2

(→: 計測部位)

3. 方法

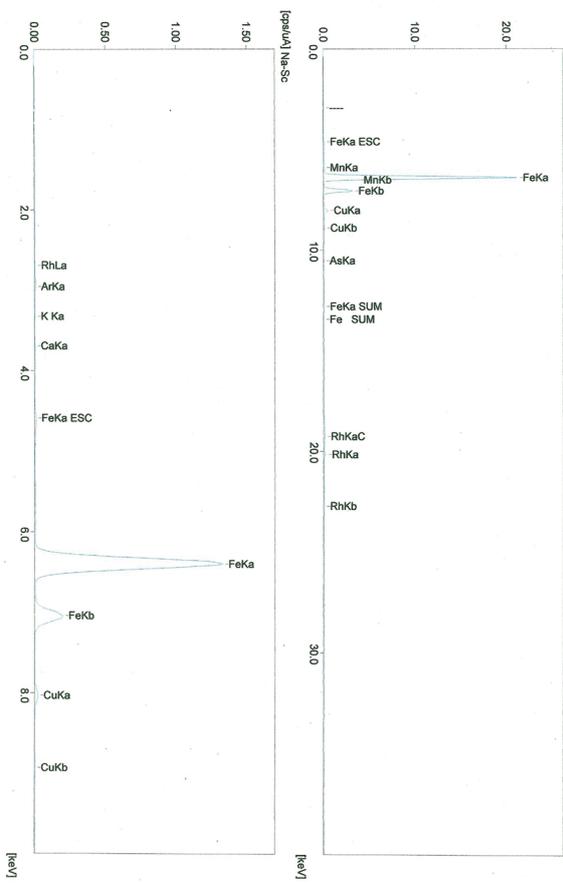
資料表面の土錆を除去して金属部分を出し、表出した金属部分で蛍光X線分析を行い、金属元素を同定した。装置は島津製作所製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-800を用いた。

4. 分析結果

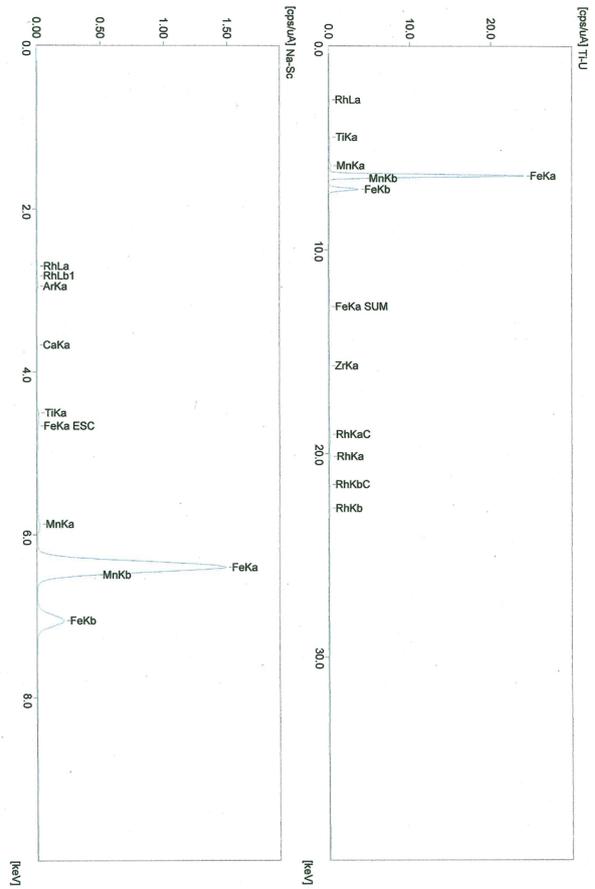
成分分析結果のスペクトルを付す。表18に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。結果からNo. 1, 2ともにほぼ鉄(Fe)が主成分として検出されているので鉄製品である。

表 18 成分分析結果

元素	No.1(wt%)	No.2(wt%)
K	0.76	-
Ca	0.33	0.40
Ti	-	0.89
Mn	0.38	1.03
Fe	94.26	97.60
Cu	4.11	-
As	0.13	-



資料No.1



資料No.2